

# 看護学実習におけるインフルエンザ予防対策と発生時対応 －平成21年度宮城大学看護学部実習委員会報告書－

遠藤 芳子<sup>1)</sup> 小野 幸子<sup>1)</sup> 高橋 和子<sup>1)</sup> 高橋 方子<sup>1)</sup> 竹本由香里<sup>1)</sup>

**キーワード：**看護学実習、インフルエンザ、予防対策、対応

## 要 旨

本報告書は、宮城大学看護学部実習委員会が取り組んだ臨地実習におけるインフルエンザの予防と発生時の対応に関する検討経過、実施事項、対応の実際、さらに、実習終了後に調査した学生の感染予防行動の状況と実習指導教員の指導状況から今後の課題を見出すことを目的としてまとめたものである。

学生の調査結果からは、予防の意識を高めることが感染予防につながるということが示唆され、教員の調査結果からは、発症時の状況把握の確認事項等の明確化、大学内での対策の整備及び実習施設との協力体制整備の必要性が課題として出された。

## Influenza Outbreak and Infection Control Guidelines

Yoshiko Endo<sup>1)</sup>, Sachiko Ono<sup>1)</sup>, Kazuko Takahashi<sup>1)</sup>, Masako Takahashi<sup>1)</sup>, Yukari Takemoto<sup>1)</sup>

**Key words：** nursing practicum, influenza, infection control, guidelines

## Abstract：

The purpose of this report was to ascertain future issues in influenza virus control at a nursing practicum carried out by the Miyagi University School of Nursing Practicum Committee. The practicum involved examining and implementing items for prevention and response to an influenza virus outbreak, as well as monitoring the actual response. In an evaluation of infection prevention activities after the practicum, students found that increasing prevention awareness leads to infection prevention, and instructors indicated the need for the following: clarification of items to ascertain outbreak status, preparation of countermeasures within the university, and development of a cooperative structure with practical training institutions.

---

1) 宮城大学看護学部 (Miyagi University School of Nursing)

## I. はじめに

本報告書は、宮城大学における新型インフルエンザ対応に関する基本方針・対応に基づいて、実習委員会が取り組んだ臨地実習におけるインフルエンザの予防と発生時の対応に関する検討経過、教員と学生間の周知徹底事項、ならびに感染学生の実態として、その人数および対応、さらに、実習終了後に調査した学生の感染予防行動の状況と実習指導教員の指導状況をまとめ、今後の課題を見出すことを目的に報告するものである。

健康管理の専門家である看護職や学校保健の担い手を育成する本学看護学部においては、学生自身が健康管理行動の一環として感染予防行動をとることができること、また、感染時には早期回復に向けて、かつ、感染媒介者にならないよう早期に適切な対処ができるよう感染に関する正しい知識・技術を修得し、行動につなげることができるように学習支援する必要がある。

とりわけ医療施設の実習においては、感染源との接触が少なくない一方で、易感染状態にある対象との接触も少なくないことから、学生がインフルエンザの流行時期に限らず、常日頃から感染に関する高い意識をもって適切な予防行動や発生時の対応ができるようにしておくことが必要である。このようなことから、本報告書は、実習施設との連携も含めて実習委員会として、感染対策の今後のより良いあり方を検討する上で基礎資料として活用できるものである。

また、感染したために実習を中断せざるをえない学生の学習保障をする必要があるが、平成21年度において対象となった学生に対しては、本大学の申し合わせである「臨地実習における感染症等罹患による振替実習の取り扱い」に則り、各看護学領域で個々の学生の学習（実習）状況に合わせて対応を行った。

学生の感染予防行動に対する意識付けや振替実習等の学習保障方法については、データを蓄積し、今後も見直しや検討を行っていくことが必要と考える。

## II. 目 的

宮城大学看護学部実習委員会が取り組んだ臨地実習におけるインフルエンザの予防と発生時の対応に関する検討経過、実施事項、対応の実際、さらに、実習終了後に調査した学生の感染予防行動の状況と実習指導教員の指導状況から今後の課題を見出すこと。

## III. 実施内容と経過

### 1. 新型インフルエンザ予防対策の実施

#### 1) 本学における「新型インフルエンザ予防対策と発生時の対応」の概要

平成21年4月に新型インフルエンザ(A/H1N1)の海外発生以後、厚生労働省においては、重傷者や死亡数の最小限を目標として広報活動、検疫の強化、サーベイランス、公衆衛生対策、医療体制の整備、ワクチンの供給と接種などの対策を実施した<sup>1)</sup>。本学においても新型インフルエンザ危機対策本部が設置され、教職員への新型インフルエンザに関する情報提供・注意喚起等の検討が開始された。平成21年5月13日に、新型インフルエンザ対策会議議長名による大学の基本指針・対応が示された「宮城大学における新型インフルエンザ対応について」が学生及び教職員に通知された。その後も、国の指針、発生状況に応じて、随時更新され、10月1日に第7報が通知されている。第7報においての予防対策の概要は、感染者の構内立ち入り禁止、入校時の手指消毒の励行、マスク使用の励行、罹患者の登校禁止と事務部への報告義務<sup>2)</sup>となっている。

本学の学生の臨地実習は必修科目であり、罹患による履修中断は次学年にも影響を及ぼすことが危惧され、臨地実習中の罹患予防と発生時の対策について検討する必要があるが出てきた。

#### 2) 実習委員会におけるインフルエンザ予防対策と発生時の対応に関する取り組みの経過

実習委員会では、宮城大学における看護学実習において学生及び教員のインフルエンザ対策（新型のみに限らないということを勘案）について平成21年8月末から検討を開始した。病院等の看護学実習受け入れ施設に新型インフルエンザの予防

対応状況及び実習受入れに伴う意向等を確認した上で、9月以降の実習に向けて「インフルエンザ予防対策ワーキンググループ」を立ち上げ、必要と考えられる事項を洗い出しながら、下記の対応を順次実施していった。

(1) 各実習施設における新型インフルエンザ予防対応方針等の確認

各施設において、共通する予防策は、「手洗いうがいの励行」「マスクの準備（大学側）」であった。

各施設によって相違がある点については、実習領域と施設が協議して対応を進めることとした。

(2) 感染予防のための必需品の確保と準備

① マスクは、大学後援会支援による学生用マスクを購入、教員用は看護学部教育費にて準備した。

② 手指消毒剤は、各実習施設用に看護学部教育費にて購入した。

(3) 「感染予防対策及び発生時の対応」に関する手順作成と周知徹底

① 「臨地実習中にインフルエンザに感染した場合の対応」の作成

「臨地実習中にインフルエンザに感染した場合の対応」とし、フロー図を教員用及び学生用の2種類を作成した（資料1、2）。

このフロー図は、文部科学省高等教育局高等教育企画課長（平成21年8月27日付）から出された「新型インフルエンザに関する対応について（第12報）」を基に宮城大学の基本指針・対応と整合性を図りながら作成した。

② 健康観察記録票の作成（資料3）

健康観察記録票には、日常的予防対策事項として実習中の健康管理について、体調管理、外出時の注意、マスクの着用、うがい、手洗いの励行、着替え時の注意の6項目を挙げ、表には、毎朝の体温、症状（鼻汁・咽頭痛・咳・その他）について記載する表とし、実習中の健康管理と予防行動の徹底および注意喚起を行った。

(4) 各実習施設への体温計の設置

実習開始後に体温測定が必要な場合のために電子体温計を14施設に各1本準備した。

(5) 教員と学生に（1）～（4）を周知徹底

指導担当教員には、実習委員から各領域への報告にて周知した。実習学生に対しては、各実習時のオリエンテーションにて周知した。

(6) インフルエンザ罹患学生の把握

各領域でインフルエンザ罹患学生が発生した場合の報告ルートとして、学部長、実習委員長への報告があるので、実習委員会において周知してもらい、把握できるようにした。

(7) 臨地実習における感染症等罹患による振替実習の取り扱い

本学では、平成19年度から看護学部新入学生への小児関連ウイルス感染症の抗体検査の実施と予防接種の推進（陰性者または低抗体者の予防接種実施時の領収書を確認する。保健委員会所管の学生グループで把握し、実施していない学生には注意を喚起）を実施している。過去の季節型インフルエンザ等に罹患した学生への対応の実績も踏まえ、学生が予防接種をしたにもかかわらず罹患した場合、実習を中断せざるを得なくなった学生の学習保障としての対応の取り決めを、平成20年度に実習委員会で検討を行い、「臨地実習における感染症等罹患による振替実習の取り扱い（申し合わせ）」（21年2月4日教授会承認）として作成した。この申し合わせは、平成21年度の「実習の手引き」に掲載して対象学生に適用しているところであり、新型インフルエンザ発生時もこの申し合わせに準じて対応することとした。

(8) アンケート調査の実施

この対応の実施についての評価を得るために、領域実習が終了した後で、3年生と実習指導担当教員に対して、実施状況と対応の適切性を知るために、アンケート調査を実施した。本調査を実施するにあたり、対象の学生および教員には、公表する旨の説明を行い、了解を得ている。

学生に対してのアンケート項目は、「実習中の体調管理」「実習期間中の外出状況」「実習期間中のマスクの使用」「うがいの励行」「手洗いの励行」「更衣前の手指衛生」「毎日の起床時の体温測定と健康観察記録票のチェック状況」「実習

期間中『日常的予防対策』の6項目の他に自主的に気をつけたことの有無「実習期間中の欠席状況」「欠席者の受診状況」「体調不良時の指導教員への相談状況」「その他：意見（困りごと、心配ごと）」の12項目であった。指導教員には、「実習期間中のインフルエンザ対応で悩んだこと・困ったこととその対応」「今後のインフルエンザ対応の課題」を記述してもらった。

#### IV. 結 果

##### 1. 施設との調整

###### 1) 実習学生にインフルエンザが発生した場合の実習継続について

施設側の対応としては、「学生が1人発症しても、実習中止とはせずに、濃厚に接触していなければ他の学生は、マスク着用と手洗い等を継続し、様子を見ながら対応する。または、その都度病院側と相談する」「1グループのうち3名が発症した場合グループ単位で実習を中止する」「学生が1名でも発症した場合はグループ全部実習を中止する」「学生の家族が発症した場合は実習を中止する」などの方針が出され、各施設の考え方に即して実習をすることにした。

###### 2) 施設側にインフルエンザが発生した場合の実習継続について

「病棟内で発症した場合の実習継続については、大学と病院で相談検討する」「患者の発症が確認された場合、実習継続について大学の方針で対応する」「病棟内で発症した場合は、患者を外泊させる方針なので学生の実習継続は大学で決める」「病棟内で発症した場合は、濃厚接触者以外は学生の体調と合わせて、その都度病院側と相談する」等各施設方針が出され、結果として、「病棟内で発症したので病院側へ相談し、他の病棟で実習させて頂いた」「病棟内で発症したが、濃厚接触者以外は実習させて頂いた」等、各施設と調整して対応した。

##### 2. 看護学実習学生のインフルエンザ発生数と実際の対応状況

###### 1) 看護学実習期間中のインフルエンザ発生数

###### (1) 基礎看護学実習における感染症等の罹患状況

###### ① 基礎看護実習Ⅱ段階

実習期間は、平成21年8月31日～9月11日、学生は、2年生で90名であった。

出席状況は、体調不良等で実習を欠席した学生はいたが、インフルエンザ罹患学生はいなかった。

###### ② 基礎看護実習Ⅰ段階

実習期間は、平成22年3月1日～3月5日、学生は、1年生で90名であった。実習期間中、欠席者はいなかった。

###### (2) 領域別看護学実習における感染症等の罹患状況

実習期間は、平成21年9月7日～平成22年3月5日、学生は、3年生と編入4年生で、合計101名であった。A型インフルエンザ罹患による欠席者が3名であった。

###### 2) インフルエンザ罹患学生に対する振替実習の実施

###### (1) 地域看護学実習

2名発生し、1名は、実習期間3週間で、欠席日数が5.5日間であったため、2日間を施設での実習、1日を学内実習として振替えた。1名は、実習を中断し、振替実習に至らなかった。

###### (2) 成人看護学実習

1名発生したが、実習期間3週間で、欠席日数が3日間であり、出席日数、実習経過および到達度を勘案し、振替実習は不要と判断した。

##### 3. アンケート調査結果

###### 1) 領域別看護実習期間中の学生（3年生）の感染予防行動の状況

平成21年度に領域別看護実習を実施した現4年生89名（1名欠席）を対象として看護実習中のインフルエンザ予防対策について調査を行い、88枚回収（回収率100.0%）、そのうち無効回答を除いて81名の回答（有効回答率92.0%）を集計した（図表1～12参照）。

###### (1) 実習中の体調管理（表・図1）

「大変よく気をつけた」6名、「よく気をつけた」18名、「気をつけた」33名、「あまり気をつけなかった」23名、「気をつけなかった」1名で、57名（70.3%）の学生が体調管理に気をつけていた。

表1 実習中の体調管理

選択肢	(名)
大変よく気をつけた	6
よく気をつけた	18
気をつけた	33
あまり気をつけなかった	23
気をつけなかった	1
合 計	81

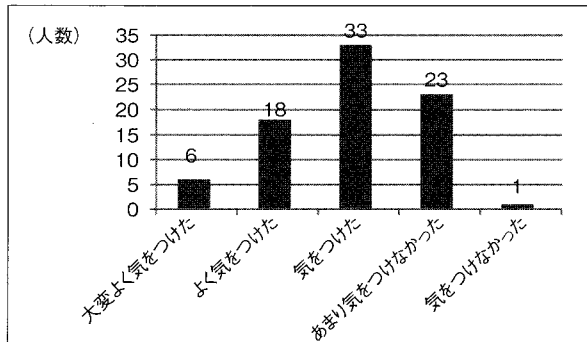


図1 実習中の体調管理 (n=81)

## (2) 実習期間中の外出状況 (表・図2)

「非常に控えた」5名、「おおむね控えた」が39名、「どちらかといえば控えた」が21名、「あまり控えなかった」が13名、「全く控えなかった」が3名で、65名(80.2%)の学生が外出を控えていた。

表2 実習期間中の外出状況

選択肢	(名)
非常に控えた	5
おおむね控えた	39
どちらかといえば控えた	21
あまり控えなかった	13
全く控えなかった	3
合 計	81

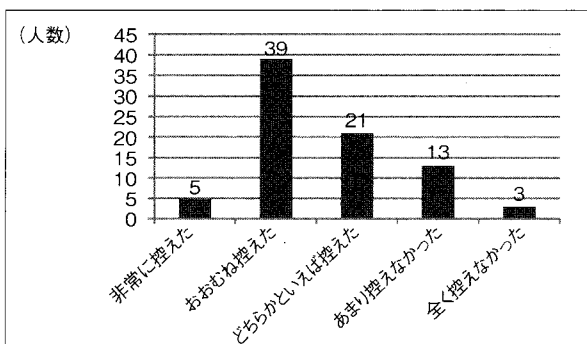


図2 実習期間中の外出状況 (n=81)

## (3) 実習期間中のマスクの使用枚数と交換のタイミング

## ① 一日のマスクの使用枚数 (表・図3-1)

「4枚以上」が28名、「3枚」が34名、「2

枚」が18名、「1枚」が1名、「使用しなかった」が0名であった。62名(76.5%)の学生が3枚以上マスクを使用していた。

表3-1 実習期間中のマスクの使用-1日の使用枚数

選択肢	(名)
4枚以上	28
3枚	34
2枚	18
1枚	1
使用しなかった	0
合 計	81

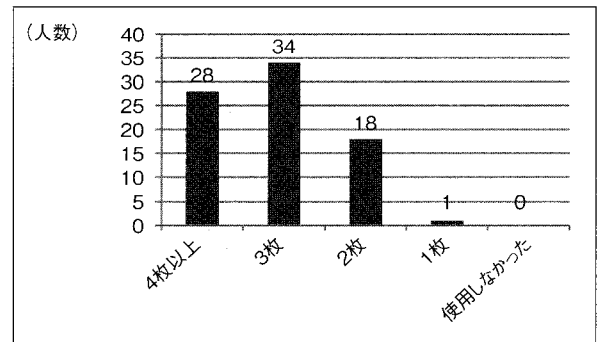


図3-1 1日のマスクの使用枚数 (n=81)

## ② マスク交換のタイミング (複数回答) (表・図3-2)

「実習地に行く時」が77名、「実習開始時」が61名、「昼食後」が72名、「実習地からの帰り」が55名、「マスクを着けなかった」が0名であった。

表3-2 実習期間中のマスクの使用-マスク交換のタイミング (複数回答)

選択肢	(名)
実習地に行く時 (移動時)	77
実習開始時	61
昼食後	72
実習地からの帰り (移動時)	55
実習中マスクをつけなかった	0
合 計	265

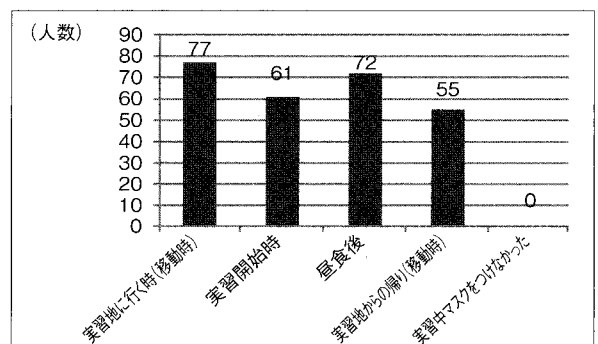


図3-2 マスク交換のタイミング (複数回答)

## (4) うがいの励行

## ① 実習開始時・実習終了時のうがいの実施状況 (表・図4-1)

「毎回必ずした」が6名、「ほぼ毎回した」が14名、「大体した」が30名、「あまりしなかった」が25名、「全くしなかった」が6名で、実施していたものは50名 (61.7%) であった。

表4-1 うがいの励行ー実習開始時・終了時のうがいの実施状況

選択肢	(名)
毎回必ずした	6
ほぼ毎回した	14
大体した	30
あまりしなかった	25
全くしなかった	6
合 計	81

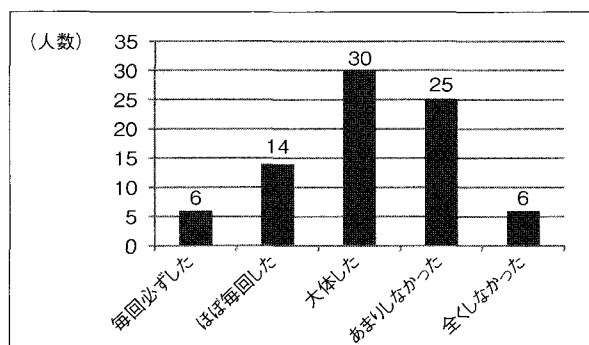


図4-1 実習開始時・終了時のうがい実施状況 (n=81)

## ② 帰宅時のうがいの実施状況 (表・図4-2)

「毎回必ずした」が24名、「ほぼ毎回した」が16名、「大体した」が13名、「あまりしなかった」が19名、「全くしなかった」が9名で、実施していたものは53名 (65.4%) であった。

表4-2 うがいの励行ー帰宅時のうがいの実施状況

選択肢	(名)
毎回必ずした	24
ほぼ毎回した	16
大体した	13
あまりしなかった	19
全くしなかった	9
合 計	81

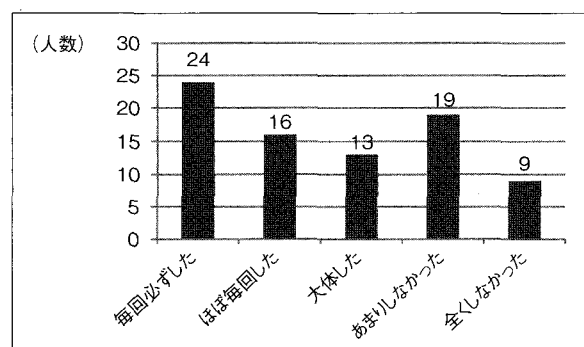


図4-2 帰宅時のうがい実施状況 (n=81)

## (5) 手洗いの励行

## ① 実習開始時・実習終了時の手洗いの実施状況 (表・図5-1)

「毎回必ずした」が57名、「ほぼ毎回した」が19名、「大体した」が4名、「あまりしなかった」が1名、「全くしなかった」が0名で、80名 (98.8%) の学生が実施していた。

表5-1 手洗いの励行ー実習開始時・終了時の手洗いの実施状況

選択肢	(名)
毎回必ずした	57
ほぼ毎回した	19
大体した	4
あまりしなかった	1
全くしなかった	0
合 計	81

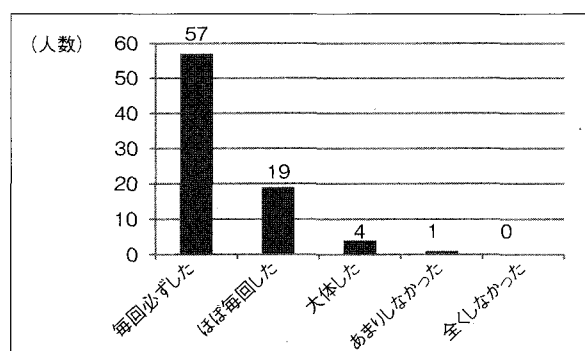


図5-1 実習開始時・終了時の手洗い実施状況 (n=81)

## ② 帰宅時の手洗いの実施状況 (表・図5-2)

「毎回必ずした」が47名、「ほぼ毎回した」が14名、「大体した」が12名、「あまりしなかった」が8名、「全くしなかった」が0名で、73名 (90.1%) の学生が実施していた。

表5-2 手洗いの励行-帰宅時の手洗い実施状況

選択肢	(名)
毎回必ずした	47
ほぼ毎回した	14
大体した	12
あまりしなかった	8
全くしなかった	0
合 計	81

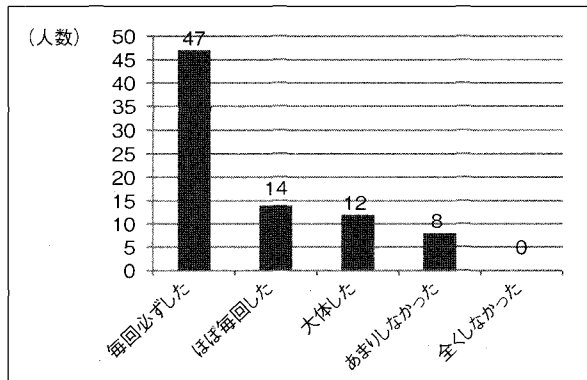


図5-2 帰宅時の手洗い実施状況 (n=81)

## (6) 更衣前の手指衛生の実施状況 (表・図6)

「毎回必ずした」が6名、「ほぼ毎回した」が15名、「大体した」が19名、「あまりしなかった」が37名、「全くしなかった」が3名、実施していたものは40名(49.4%)、「無回答」が1名であった。着替え時に、手洗いもしくは消毒剤を用いて行っていたものは半数であった。

表6 更衣前の手指衛生(手洗いもしくは速乾性手指消毒剤の使用)の実施状況

選択肢	(名)
毎回必ずした	6
ほぼ毎回した	15
大体した	19
あまりしなかった	37
全くしなかった	3
無回答	1
合 計	81

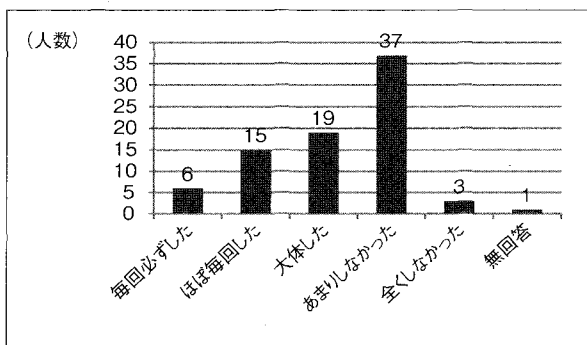


図6 更衣前の手指衛生の実施状況 (n=81)

## (7) 体温測定と健康観察記録票のチェック状況 (表・図7)

「毎回必ずした」が27名、「ほぼ毎回した」が34名、「大体した」が14名、「あまりしなかった」が5名、「全くしなかった」が0名で、「無回答」が1名であり、75名(92.6%)の学生が実施していた。

無欠席者と欠席者を比較すると無欠席者のほうが「毎回必ずした」と「ほぼ毎回した」の割合が高い傾向(Pearsonの $\chi^2$ 乗検定 $p=0.053$ )であった。

表7 毎日の起床時の体温測定と健康観察記録票のチェック状況

選択肢	(名)
毎回必ずした	27
ほぼ毎回した	34
大体した	14
あまりしなかった	5
全くしなかった	0
無回答	1
合 計	81

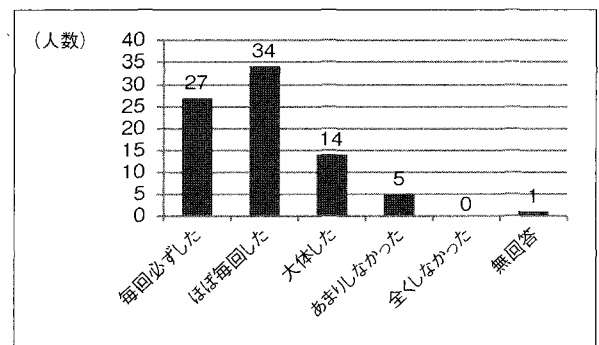


図7 体温測定と健康観察記録票のチェック状況 (n=81)

## (8) 自主的に気をつけたこと (表・図8)

「ある」が1名で「休日の外出時もマスクをした」、「ない」が66名、「無回答」が14名であった。

表8 実習期間中「日常的予防対策」の6項目の他に自主的に気をつけたことの有無

選択肢	(名)
ある	1
ない	66
無回答	14
合 計	81

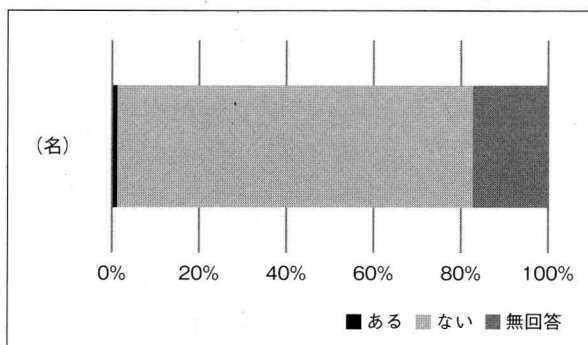


図8 自主的に気をつけたことの有無 (n=81)

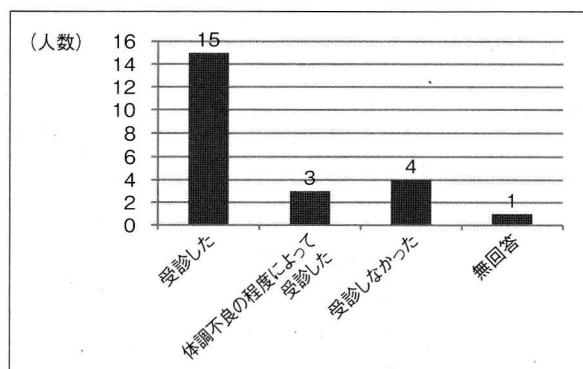


図10 欠席者の受診状況 (n=23)

## (9) 実習期間中の欠席の有無 (表・図9)

「欠席した」が23名、「欠席しなかった」が58名であった。

表9 実習期間中の欠席状況

選択肢	(名)
欠席した	23
欠席しなかった	58
合 計	81

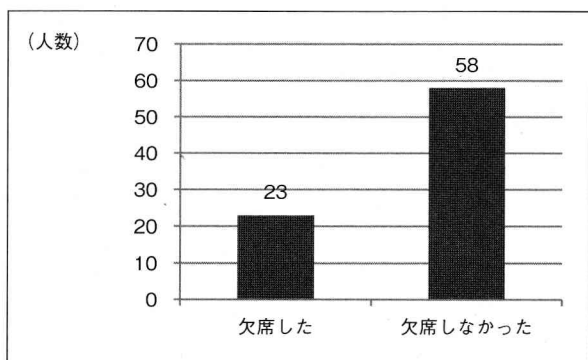


図9 実習期間中の欠席の有無 (n=81)

## (10) 欠席者23人の受診状況 (表・図10)

「受診した」が15名、「程度によっては受診した」が3名、「受診しなかった」が4名、「無回答」が1名であった。

表10 欠席者23人の受診状況

選択肢	(名)
受診した	15
程度によって受診した	3
受診しなかった	4
無回答	1
合 計	23

## (11) 体調不良時の指導教員への相談状況 (表・図11)

「相談した」が20名、「体調不良の程度によって相談した」が30名、「相談しなかった」が23名、「無回答」が8名であった。

表11 体調不良時の指導教員への相談状況

選択肢	(名)
相談した	20
体調不良の程度によって相談した	30
相談しなかった	23
無回答	8
合 計	81

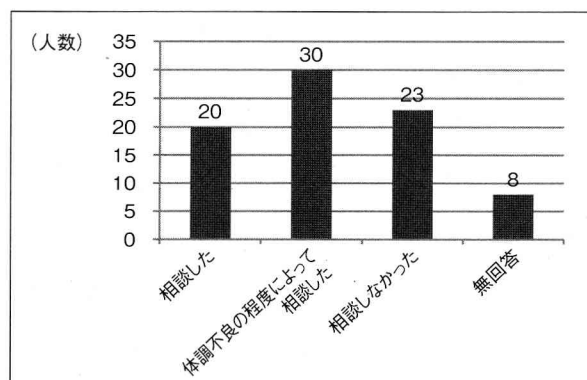


図11 体調不良時の指導教員への相談状況 (n=81)

## (12) その他・意見 (困りごと、心配ごと) (表12)

4件あったが、いずれもマスクをして実習することへの抵抗や表情の伝わりにくさ、コミュニケーションの困難感が記載されていた。

## 2) 実習指導教員のインフルエンザ予防対応での指導状況

平成21年度の領域別看護実習および基礎看護実



表12 その他：意見（困りごと、心配ごと）8件（有効数4件）

マスクをしたまま、患者さんとコミュニケーションをとるのに少し抵抗があった。
マスクを付けていると、患者さんに表情が伝わりにくく、コミュニケーションの時に、少し困った。
マスクを付けることで、患者さんとのコミュニケーションの間に壁があるような感じがし、目だけでのコミュニケーションは大変だった。
マスクで顔が隠れるので、コミュニケーションが取りにくかった。

表13 実習期間中のインフルエンザ対応で悩んだこと・困ったこととその対応

項 目	内 容	対 応
実習参加の判断	基礎実習の段階では対応策が決まっていなかったため、実習病院の感染対策を踏まえながら実施していたが、学生への周知徹底が十分ではなく、有症状者が出てきた。	有症状者は、速やかに帰宅・受診するように指導した。
	発熱に過敏になり、他の症状の有無に関わらず、実習に参加させるかどうかの判断に迷うケースが増えた。	
	発熱以外のインフルエンザ様症状が出た時に他の症状の有無にかかわらず、実習に参加させるかどうかの判断に迷うケースが増えた。	翌朝に体温測定をするように指示し、学生から、発熱はないが寒気・関節痛があるため欠席する旨の連絡があった。
情報の共有	インフルエンザ発生時の大学内の情報共有がスムーズにいかず、実習期間中に学生や他の教員との連絡が必要な状況になった。	病棟を離れる際には病棟スタッフに声をかけ、学生の実習に支障がないように配慮した。
	大学内（又は学生間）でインフルエンザの集団発生があった場合の実習継続等の大学としての対応を施設から問われた。施設として、実習を引き受けて良いのか、対象者に十分な説明ができるのかと悩むとのことであった。	方針が決まったら報告すると伝えた。
マスクの着用	学生全員がマスクを着用して実習を行うことに抵抗を感じた。顔を見せないことが、患者に失礼になるのではないかと危惧した。	決まり事と患者に説明、コミュニケーションに支障はなかった。
	施設から学生がマスクをしていることで表情がわかりにくく、やりにくい（患者とのコミュニケーション・カンファレンス）と指摘された。	可能な範囲でカンファレンス時ははずした。
濃厚接触者への対応	担当した学生が濃厚接触者だったが、その学生への対応がわからなかった。	ファカルティに相談、学生にマスク着用を徹底させ経過観察した。
発症した学生の状況確認	発症した学生の状況確認のため、学生に何度も連絡をすることになり、学生に負担をかけてしまった。	確認事項を整理し、状況確認に時間をかけないようにした。
実習環境	基礎実習では、30名程度の学生が一つの更衣室・控室を共有するため学生間で感染が拡大する可能性が高かった。	感染予防行動を指導するとともに、昼食時は施設の食堂を使用させてもらい、学生が狭い空間に密集しないように対応した。

習で直接学生指導を行っていた教員20名を対象として看護実習中のインフルエンザ予防対策について調査を行い、14名（回収率70%）から回答があった。

#### （1）実習期間中のインフルエンザ対応で悩んだこと・困ったこととその対応

実習期間中の学生や実習施設へのインフルエンザ対応について8名が困ったり、悩んだりしたことがあったと回答した（表13）。その内容は「実習参加の判断」「情報の共有」「マスクの着用」「濃厚接触者への対応」「発症した学生の

状況確認」「実習環境」に関するものであり、具体的には、「濃厚接触者への対応がわからなかった」「状況確認のために何度も学生に連絡した」などが挙げられた。対応としては、その時の状況に合わせて、施設や上司に相談し、対応をしていた。

#### （2）今後のインフルエンザ対応の課題

今後のインフルエンザ対策の課題を自由記述で回答を求めたところ、6名から回答があった（表14）。その内容は「大学としての対策の整備」「実習施設との対策の調整」「学生の感染予防行

表14 今後のインフルエンザ対応の課題

項 目	内 容
大学としての対策の整備	実習施設もしくは学生がインフルエンザを発症した際の連絡方法について、各領域に任せるのではなく、大学としての体制を整えたほうがよいと考える。
	新型インフルエンザ流行の兆しがあったにもかかわらず、対応策の検討が遅かったと思う。平時から感染対策を検討し、マニュアルの整備を進めるべきだと考える。
実習施設との対策の調整	学内の対策に沿うことが大前提であるが、各実習施設のインフルエンザ対策との整合性等をどのようにしていくかが課題だと感じた（病院職員はマスクをしていないのに、学生はマスクをしているなど）。
	事前に実習施設の看護管理者と対策について相談し、学生控室の環境等について対応してもらうなど、事前に施設と対策の確認をすることが大切と思う。
学生の感染予防対策の強化	学生に対し、適切な時期に予防接種を受けるように指導し、健康管理行動がとれるように基礎実習の段階から指導を継続していくことが大切だと思う。
	今後、新型インフルエンザワクチンの接種なども取り入れて、感染予防対策を強化していく必要があると思う。
発症時の確認事項の周知	インフルエンザを発症した学生に対し、確認すべき事項を整理し、周知して欲しい。（症状、検査結果、受診医療機関名、濃厚接触者、他事務部で必要な情報等）

動の強化」「発症時の確認事項の周知」に関するものであり、具体的には、「大学の対応が遅かった」「マスク使用の施設との調整が必要だった」「インフルエンザ発生時の確認事項を整理・周知してほしい」などが挙げられた。

## V. 考 察

### 1. 施設との調整

学生のインフルエンザ発生時には、施設と調整して、他の学生の実習中止はなく経過し、施設においてもインフルエンザは発生がなく経過し、今後も実習施設との連携を密にしていくことが重要と考える。

### 2. インフルエンザに罹患した学生に対する振替実習の実施

罹患した学生が3名で多くの感染者が出なかったことから、予防対策の効果があったのではないかと考えられる。また、罹患した学生への振替実習も迅速に実施され、この対策と対応は評価できると考える。

### 3. アンケートの結果

#### 1) 学 生

学生の感染予防行動はおおむね実施されていたと考えられるが、100%実施をねらいとして対策を実施したことであり、若干の無念さは残る結果で

ある。しかし、罹患者が少なかったということでは、効果を得たと考える。マスクの使用については、登下校時の衆人に接する場合には使用すべきであり、施設においては、マスク使用の不必要な場合もあるので、施設との調整を図りながら実施していく必要がある。しかし、そのような事情からも使用枚数のばらつきについてはやむを得ないところである。また、体温測定と健康観察のチェックを毎回実施した学生では、無欠席の学生が欠席の学生より比較してみると高い傾向があったという結果から感染予防についての意識を高めることがすなわち感染予防につながるということが示唆された。

今後も、日常的に自分の健康管理をすることが自分のみではなく、他の人たちの健康の保持にもつながること等を含めて実習時健康管理指導に努めていく必要がある。

#### 2) 教 員

悩んだことについての対応ではその都度解決できていたものが多かったが、インフルエンザ様症状を訴える学生の実習参加を判断することが困難であったことが推察された。また、インフルエンザ対応フローに書かれている内容が必ずしも十分に理解されていなかったことも明らかとなり、インフルエンザ発症の場合の状況把握のための確認事項等も明確に記載しておく必要があったと考え

られる。しかし、不測の状況が発生する可能性もあり、すべてを網羅することは困難である。そのため指導担当教員には、その場その時の対応ができるように、判断力や実行力を身につけていく自己研鑽が必要であると考ええる。

また、大学内での対策の整備だけではなく、実習施設との連絡・調整が必要であり、教員間と大学－施設間の情報共有を図りながら体制を整えていくことが必要と考えられる。

## Ⅵ. まとめ

平成22年度の看護学実習は、5月31日から6月11日までの総合実習からの開始に合わせて、新型インフルエンザの鎮静による予防対策の変更点などを各実習施設に確認するとともに、予防対策の徹底による効果を期待して、マスクの使用、手洗い、うがい、体温測定等の健康管理を実施したところ、感染者は発生せずに経過した。平成22年8月10日、世界保健機関（WHO）より、「新型インフルエンザの世界的大流行は終息期に入った」と発表されたが、今後の看護学実習においてもさらにインフルエンザ予防対策は手を抜くことなく実施していくことであり、なおかつ発生時の迅速な対応が学生の不利益を回避できるものと考え、さらに強化していく必要があると考える。

## 謝 辞

この報告書に協力をいただいた、施設の皆様、対象となった看護学生の皆様、指導担当教員の皆様、宮城大学実習委員会委員の皆様に深謝いたします。

## 文 献

- 1) 厚生労働省: 新型インフルエンザ (A/H1N1) 対策総括会議 報告書 平成22年6月10日:  
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekka-ku-kansenshou04/info\\_local.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekka-ku-kansenshou04/info_local.html)
- 2) 宮城大学における新型インフルエンザに関する対応について<第7報>: 2010年6月30日:  
<http://www.myu.ac.jp/info/in01.html>

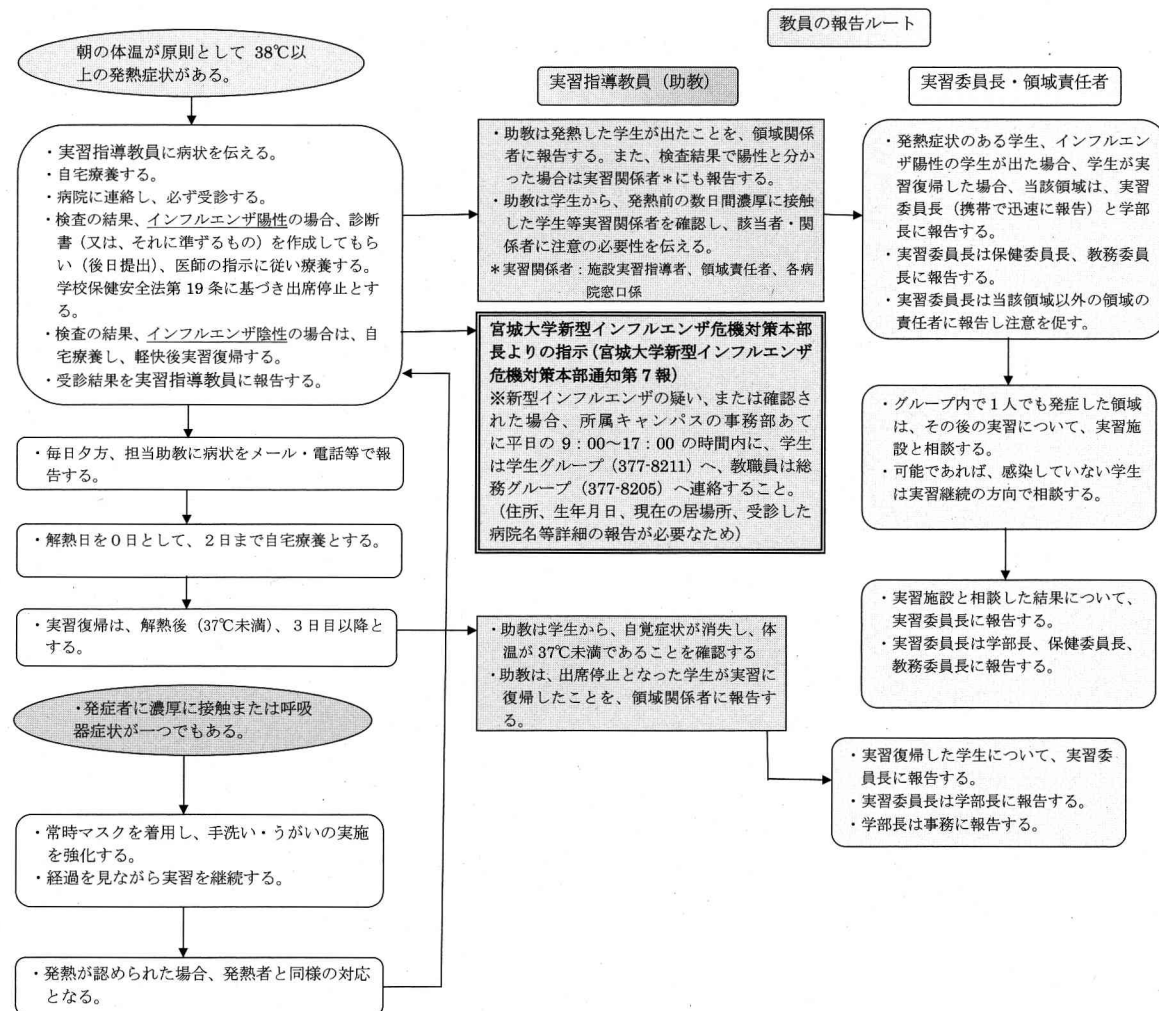
## 臨地実習中にインフルエンザに感染した場合の対応

資料 1

※実習の手引き（資料 4）では、復帰時診断書提出となっているが、今年度はインフルエンザに関してこのフローに従うこと。

※37℃以上または体調不良時は必ず実習指導教員に連絡すること。

### ☆学生に発熱、急性呼吸器症状が認められる場合



### ☆教員が感染した場合

基本的には学生に準じるが、領域責任者との検討のうえ、対応を決定する。

学生の場合と同様に  
・当該領域は実習委員長に報告する（不在の場合には学部長に報告する）。  
・実習委員長は、保健委員長と教務委員長に報告する。  
・実習委員長は、当該領域以外の責任者に報告し注意を促す。

インフルエンザの疑い、または確認された教員は、総務班 吉田和弘リーダー（377-8205）へ連絡する。復帰時も報告する。

### ☆実習施設の利用者が多数感染した場合

各領域と実習施設との検討によって対応を決定する。

※上記の対応については、国、自治体の指針に基づく方向で順次修正していくこととする。  
なお、この対応は文部科学省高等教育局高等教育企画課長（平成 21 年 8 月 27 日付）から出された、「新型コロナウイルスに関する対応について（第 12 報）」を基に作成した。

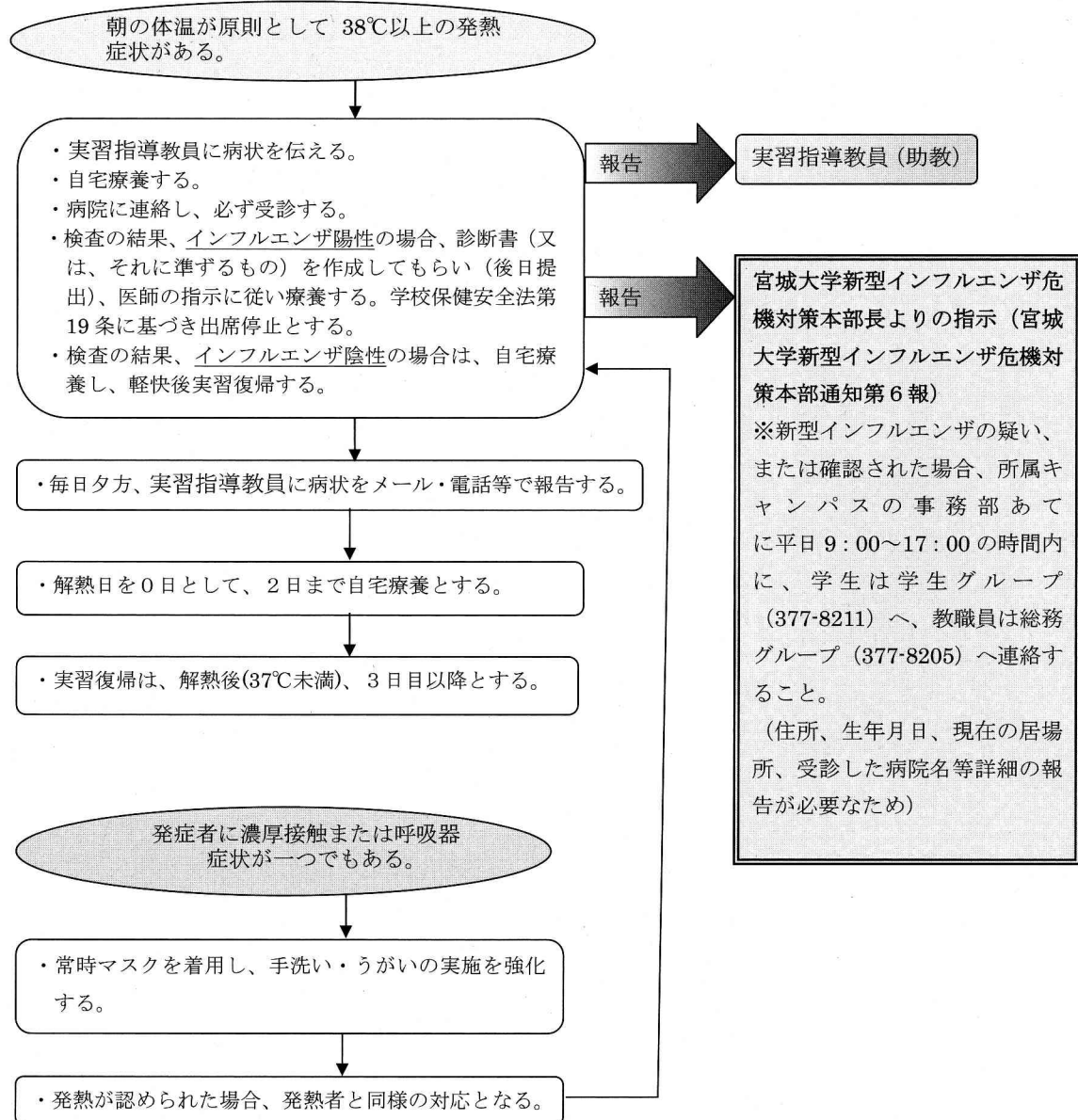
平成 21 年 10 月 14 日 宮城大学看護学部実習委員会（第 3 版）

## 資料 2

## 臨地実習中にインフルエンザに感染した場合の対応(学生用)

※実習の手引き(資料4)では、復帰時診断書提出となっているが、今年度はインフルエンザに関してこのフローに従うこと。

※37℃以上または体調不良時は必ず実習指導教員に連絡すること。



※上記の対応については、国、自治体の指針に基づく方向で順次修正していくこととする。

なお、この対応は文部科学省高等教育局高等教育企画課長(平成21年8月27日付)から出された、「新型インフルエンザに関する対応について(第12報)」を基に作成した。

平成21年9月宮城大学看護学部実習委員会

### 日常的予防対策

実習中の健康管理について、以下の点について留意してください。

1. バランスのとれた栄養と休養、そして規則的な生活をし、体調管理をしましょう。
2. 人混みや繁華街への外出、カラオケボックスに行く等は極力控えましょう。
3. 実習では、マスクを必要枚数持参しましょう(実習地への行き・帰り各1枚、実習場で午前・午後各1枚、計 4 枚の確保が望ましい)。
4. うがい、手洗いを行いましょう。
5. 着替えは、手洗いもしくは速乾性手指消毒剤で手を清潔にしてから着替えるようにしましょう。
6. 実習中の健康管理の一環として、起床時の体温・自覚症状を下記の健康観察記録票に書き、実習記録と一緒に実習指導教員に提出してください。なお、自覚症状、おもな症状には当てはまるところに○印をつけてください。

健康観察記録票

月 日	体温	自覚症状	おもな症状	確認欄
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	
月 日		なし・あり	鼻汁・咽頭痛・咳・その他 ( )	